

科目	ビジネスモデル論	担当	加藤 省三	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

近年、ビジネスモデルという言葉が、eビジネス、特許、システム開発の分野、さらには一般のビジネス分野においても、よく用いられている。本授業では、ビジネスモデルの分類、特許、表現法などについて、その考え方や事例を学ぶ。具体的には、ビジネスモデルの分類や作成、ビジネスモデル特許やその具体例、統一モデリング言語(UML)を用いた表現法などを講義するとともに、理解度テストを課し演習を行うことにより理解度を高める。こうした講義により、ビジネスモデルの考え方と知識が修得できる。

【履修注意】

- ・講義資料をWBTで配信するので、パソコンを毎回持参すること。
- ・毎回の講義の中で理解度テストを行い、その提出をもって出席とみなす。

【評価方法】

理解度テスト25%、中間まとめ30%、定期試験45%による総合評点で評価する。

【試験について】

筆記試験(中間まとめ、定期試験)を行う。

再試験対象者の条件: 不合格者のうち欠席5回以下かつ総合評点45点以上を対象とする。

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針につき、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要。また、各回提出した理解度テストについて、翌週に示す解答を参照して復習すること。

【教科書】

- ・購入教科書なし。講義資料をWBTで配信。

【参考書】

- ・書籍名:「ビジネス表現のためのオブジェクト指向」 著者:芳賀正彦 出版社:日刊工業新聞社
- ・書籍名:「UMLビジネスモデリング講座」 著者:佐川 聡、桜井達也 出版社:ソフト・リサーチ・センター

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	ガイダンス、ビジネスモデルとは	シラバスおよび授業概要説明、ビジネスモデルの概要と変遷
2	ビジネスモデルの分類	eビジネスモデル、モデル分類と具体的事例
3	ビジネスモデルの表現	ビジネスのモデル化、モデリング手法
4	ビジネスモデル特許とは	ビジネスモデル特許の考え方、特許の考え方の変遷
5	ビジネスモデル特許の具体例	米国特許の事例、日本特許の事例、利用目的
6	ビジネスモデル特許出現の背景	特許制度の歴史、欧米の特許制度、日本の特許制度
7	ビジネスモデル特許の事例研究	逆オークション特許、日本の事例、前半の重要事項整理
8	中間まとめ	前半の復習とまとめ
9	統一モデリング言語(UML)	モデリング、UMLとは、UMLの機能
10	オブジェクト指向の考え方	手続き型言語・オブジェクト指向言語、オブジェクトとクラス
11	業務フローとシステム機能	アクティビティ図、ユースケース図
12	シナリオとオブジェクト	機能の詳細化、オブジェクト図
13	オブジェクト間関係	クラス図、コミュニケーション図、ステートチャート図
14	モデルベース思考(MBT)	UMLの利用例、モデルベース思考法、認定試験
15	総復習とまとめ	全体の重要事項整理
16	定期試験	総まとめ